

掲載日		掲載紙	掲載頁
2008年	5月号	KINZAIファイナンシャル・プラン	35



株式会社アセットパートナーズ
グループ代表取締役
企業再建・承継コンサルタント
協同組合代表理事

まなべ としみ
真部 敏巳氏



企業承継は「心」の承継から始まる

組合形式のプロ集団

株式会社リクルート住宅情報、株式会社リクルートコスモスを経て、公認会計士事務所の不動産関連会社社長に就任。その後、1992年に不動産マネジメント業務を柱とした株式会社アセットパートナーズを設立。定期借地権、定期借家権、不動産の証券化等のコンサルティングを数多く手がける。2001年には経済産業省認可団体である企業再建・承継コンサルタント協同組合を設立し、その代表理事に就任した。

同組合は、中小企業に対する経営改善型の「自主再建」および「企業承継」の提案、実行支援を、経営や財務、法務などの専門家が協働して行う組織。業界では珍しい組合形態については、「顧客に最少の費用で、多様なソリューションを提供するためには組合方式が最適」と語る。現在、税理士、弁護士、不動産鑑定士など、全国で延べ130名余りの会員がおり、中小企業が抱える悩みに対してワンストップサービスを提供。受託案件は7年間の累計で140件（2008年4月現在）と確かな実績を積み上げている。

「企業承継」に込められた思い

同組合が掲げる「企業承継」は聞き慣れない言葉であろう。一般的に広く使われている「事業承継」という用語は、承継問題について一部の分野のみを捉えた不十分かつ偏った認識によるものだという。「とにかく自社株や不動産といった資産の承継に話題が終始しがちですが、承継問題を抱える事業主のほとんどは、後継者不在や後継者候補の能力不足に悩んでいるのが実態です。承継問題で最も重要なのは後継者と経営承継、言い換えれば「心」の承継なのです」

1990年初頭、相続税の高騰が社会問題化する中、遊休地に賃貸マンションを建築する相続対策が横行していたのを目の当たりにした。「当時、承継対策の単なる一手段であるはずの土地の有効活用がたかかも目的であるかのごとく実行されていました。金融機関や建築業者の企業論理からすれば至極当然な行動ですが、その結果はご存じのとおりです」

その後、数多くの企業再建案件に携わる中、中小企業経営においていかにオーナーの思い、理念、企業文化が重要なのかを肌で実感。

これら体験の帰結が、経営の承継、経営者交代、資産の承継という3つの視点を含有した「企業承継」という言葉に込められている。

浮利は追ってはならない

「承継は企業の財務状況や親族間の関係など非常にナイーブな問題で、金融機関にすべての情報を開示することに抵抗を示す事業主は多くいます。また、金融機関は債権者でもあるため、コンプライアンス上、少なからず制約が出てしまいます」。それゆえ、承継問題に対して客観的、中立的な立場で制約なく顧客にとって最適な方策を描けることも同組合の存在意義だという。

コンサルティングに求められる資質について聞くと、「意欲・知識・経験」の3つを挙げるとともに「浮利は追ってはならない」と心得を説く。「これらを兼ね備えた人材を今後どれだけ輩出できるか。それが私自身の承継問題です」と呵呵大笑。相続対策から、定期借地権、不動産の流動化、企業再生、承継問題とその時々で社会で求められるテーマに関して活動を展開してきた氏の今後の動向から目が離せない。（梅原）